

お知らせ

記者発表資料	平成29年 4月14日
配布日	

同時発表先：岡山県政記者クラブ
岡山市政記者クラブ
倉敷市記者クラブ

吉井川・旭川・高梁川の堤防点検・安全利用点検を実施します。

岡山河川事務所は、岡山三大河川（吉井川・旭川・高梁川）のうち、岡山市・倉敷市などの人口、資産が集中し、河川のはん濫により甚大な被害が発生する恐れのある県南の平野部区間の河川管理を担当しています。梅雨等の本格的な洪水期に備えて、岡山河川事務所職員、防災エキスパート、河川維持業者により、堤防等河川管理施設に異常が発生していないかを、点検を実施します(概要は【別添】を参照)。

また、河川を利用する機会が増えることが予想されるゴールデンウィークを前に、危険な箇所がないか、水辺の安全利用点検を所轄警察署と協働で行います。

なお、点検結果は、岡山河川事務所ホームページにて掲載いたします。

【ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/okakawa/>】

◆旭川水系 平成29年 4月18日(火) 9:00～17:00

※出発식을9:00から河川敷(旭川)で実施します(【位置図】を参照)

◆吉井川水系 平成29年 4月19日(水) 9:30～17:00

◆高梁川水系 平成29年 4月20日(木) 9:30～17:00

【昨年度点検の様子(H28.4)】



出発式



点検の状況



小動物による穴

<問い合わせ先>

■国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所 086-223-5101 (代表)

【担当】 副所長(技術) 今岡 俊和 (内線 204)

管理第一課長 野津 善英 (内線 331)

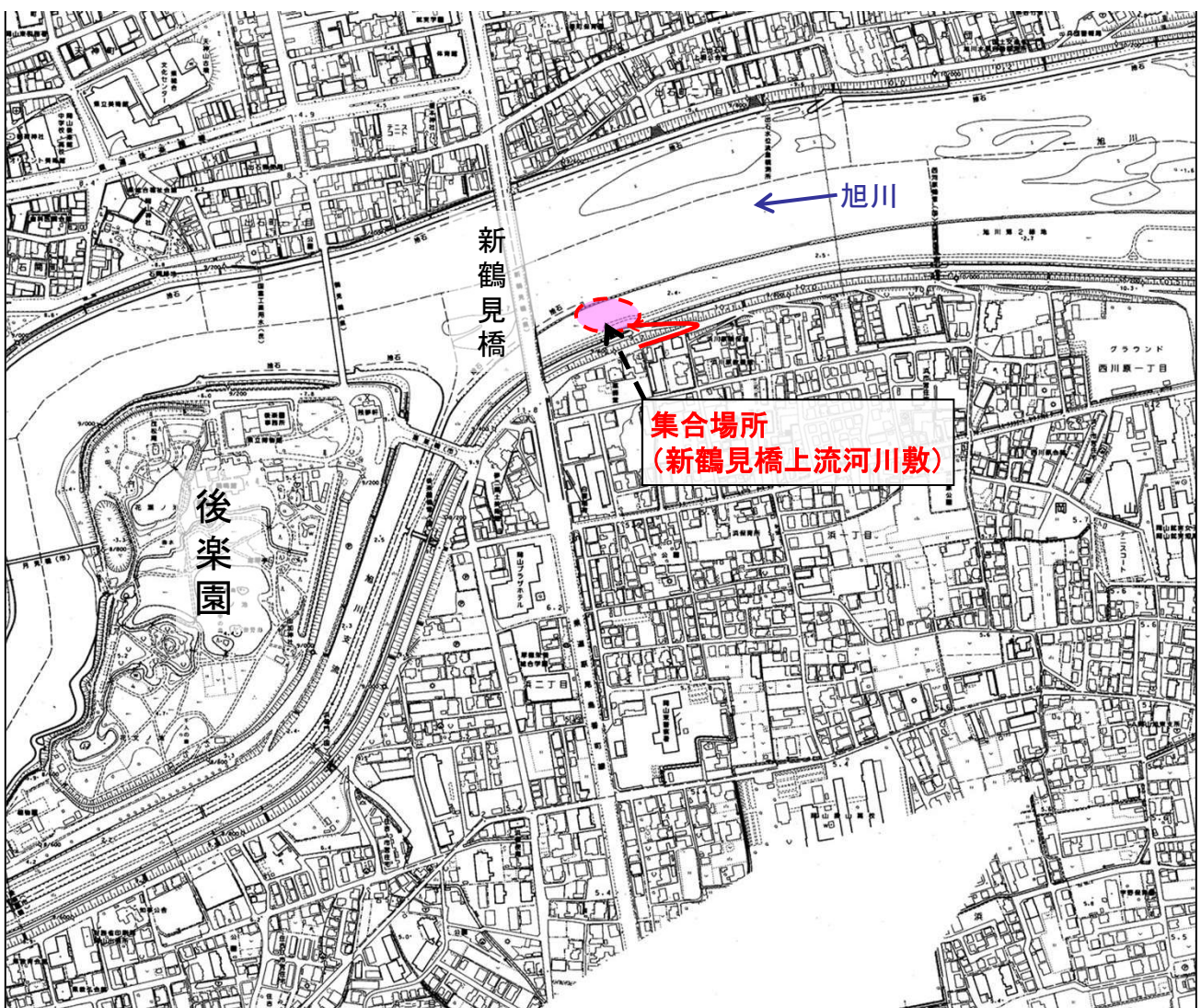
岡山河川事務所ホームページアドレス

<http://www.cgr.mlit.go.jp/okakawa/>

【位置図】

取材をされる方へ

報道関係の取材の方は、平成29年4月18日(火)9:00から参加者による出発式を実施しますので、それまでに下記場所(河川敷)に集合をお願いします。なお、出発式では事務所長が挨拶をする予定です。



【別紙】

①洪水期前堤防点検

○概要

梅雨等の本格的な洪水期に備えて、吉井川・旭川・高梁川の国管理区間を対象として、岡山河川事務所職員・防災エキスパート・河川維持業者により、堤防に穴や亀裂、緩み、崩れなどの異常が発生していないか、樋門等に異常が発生していないか、RMDIS（リマデイス【タブレット端末】）を用いて点検します（概要は別添参照）。なお、異常が確認された場合には、速やかに処置を行います。

○点検参加者

吉井川・旭川・高梁川で延べ、岡山河川事務所職員 51 人、防災エキスパート 9 人、河川維持業者 12 人、計 72 人の参加により点検を予定しています。

※防災エキスパート

「阪神・淡路大震災」を教訓に、地震・風水害などの大規模災害時に、被災した公共施設等の被災情報の収集などをボランティアとして行う「防災エキスパート制度」が創設されました。

②安全利用点検

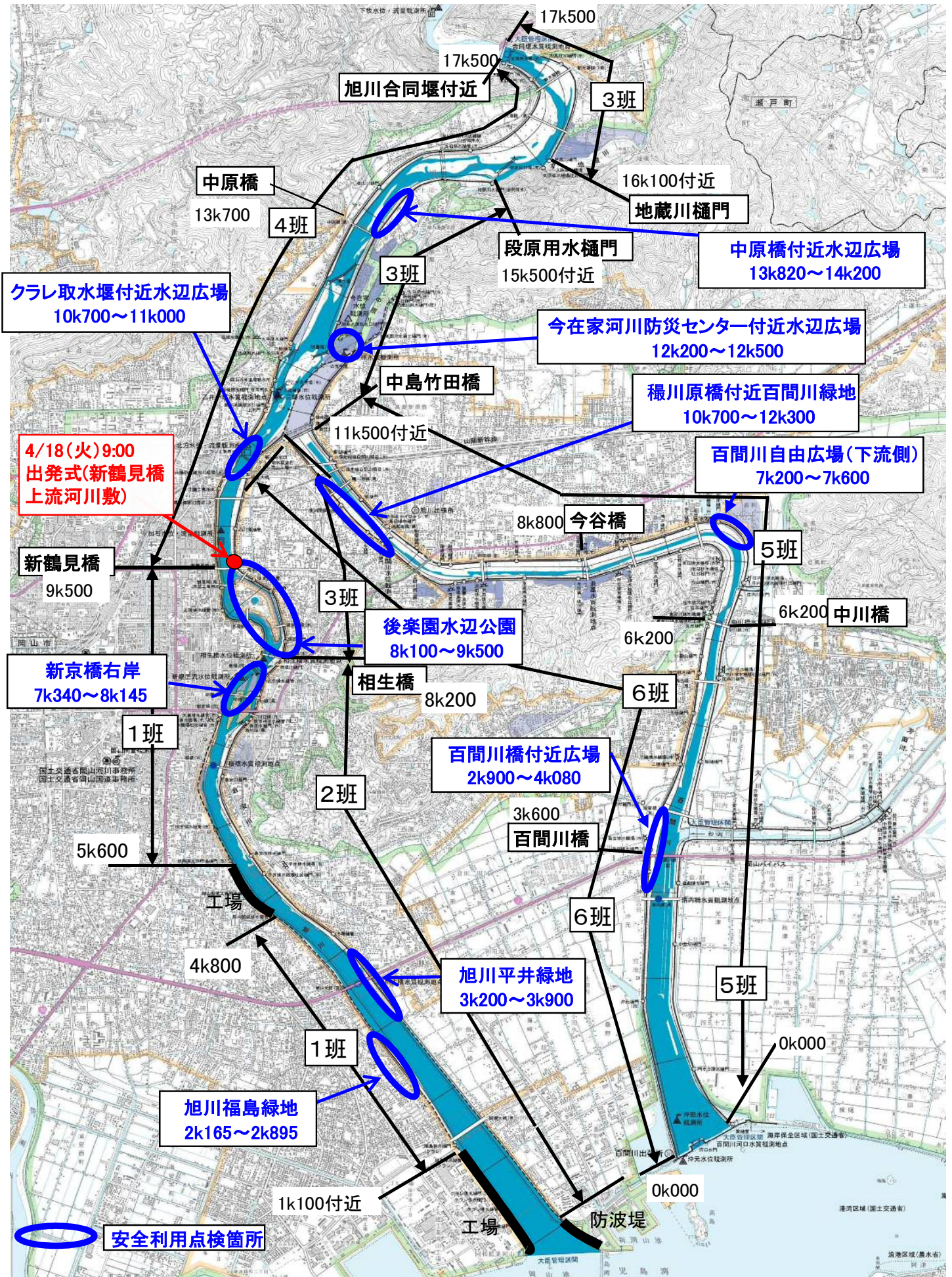
○概要

ゴールデンウィークには、河川を利用する機会が増えることが予想されるため、吉井川・旭川・高梁川(国管理区間)の水辺の「安全利用点検」を実施します。実施に当たっては、所轄警察署と協働で行い、安全に河川を利用していただけるよう危険な箇所がないかどうかを点検します。

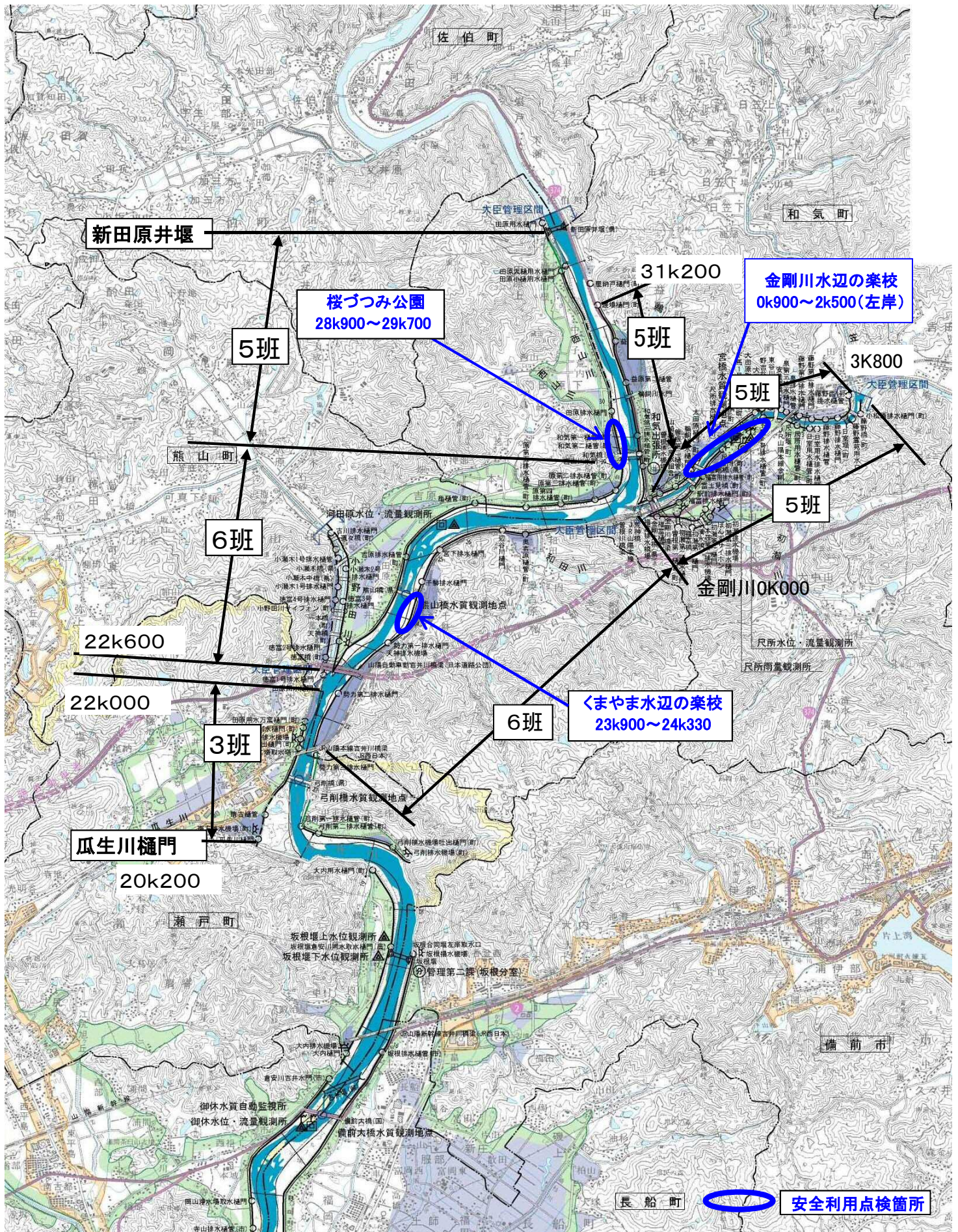


安全利用点検の実施状況

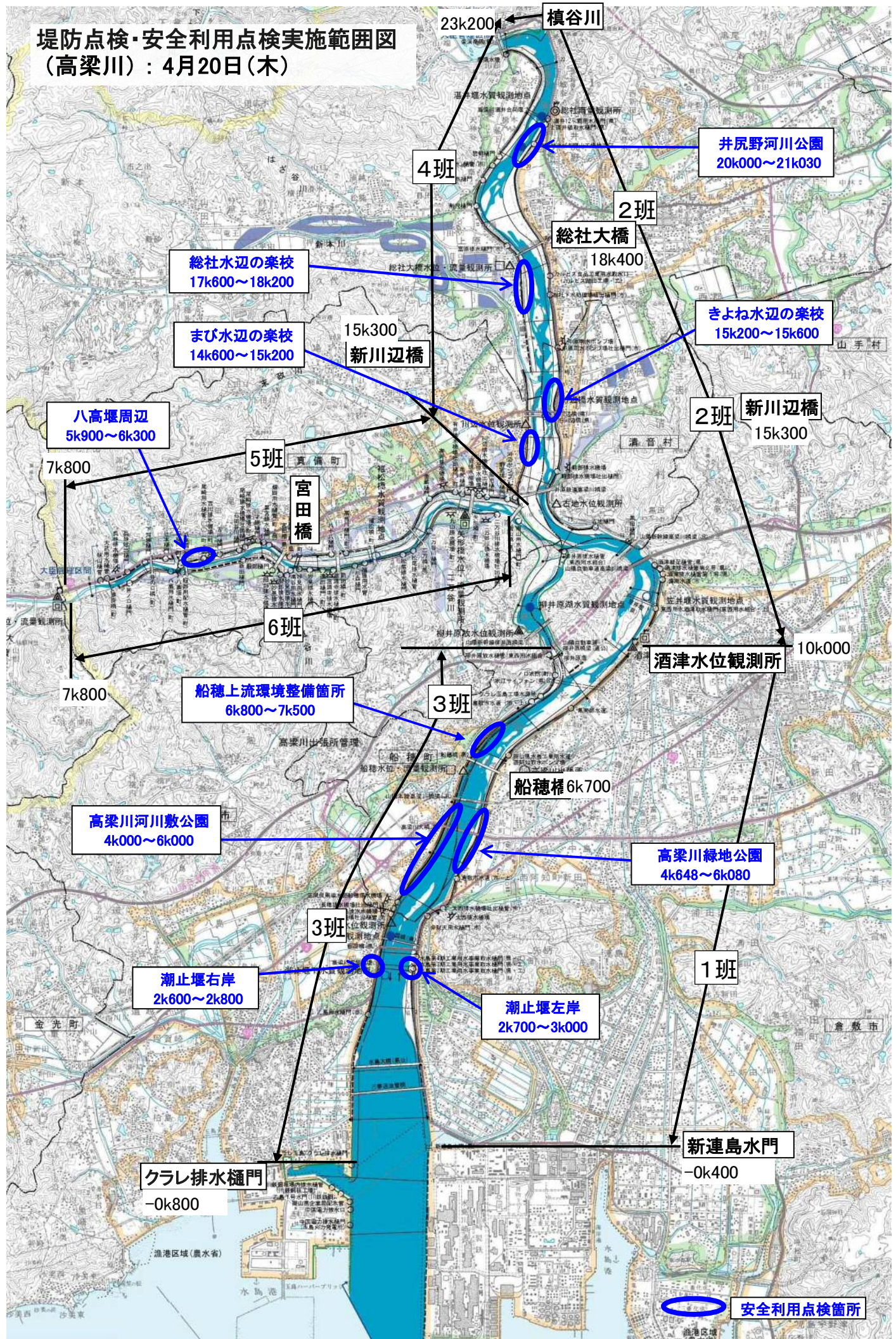
堤防点検・安全利用点検 実施範囲図(旭川・百間川) : 4月18日(火)



堤防点検・安全利用点検実施範囲図(吉井川上流) : 4月19日(水)



**堤防点検・安全利用点検実施範囲図
(高梁川) : 4月20日(木)**



井尻野河川公園
20k000~21k030

総社水辺の楽校
17k600~18k200

まび水辺の楽校
14k600~15k200

きよね水辺の楽校
15k200~15k600

八高堰周辺
5k900~6k300

5班

宮田橋

2班 新川辺橋
15k300

6班
船穂上流環境整備箇所
6k800~7k500

3班

船穂橋 6k700

酒津水位観測所 10k000

高梁川河川敷公園
4k000~6k000

高梁川緑地公園
4k648~6k080

3班

潮止堰右岸
2k600~2k800

潮止堰左岸
2k700~3k000

1班

新連島水門
-0k400

クラレ排水樋門
-0k800

安全利用点検箇所

RMDISの概要

【別添】

●RMDIS(リマディス)とは

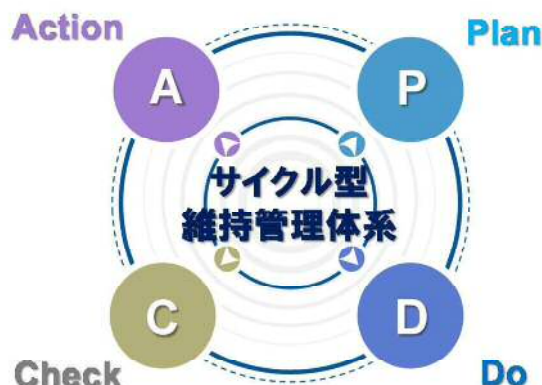
RMDIS = River Management Data Intelligent Systemの略称



河川維持管理業務を支援する仕組みである河川維持管理DBシステムの
全国統一版をRMDISと呼ぶ。

●RMDISの目的

- ① 河川維持管理の現場における河川維持管理業務を**着実に、かつ効率的に行うための業務支援。**
- ② 現場での河川維持管理のPDCAサイクルによる**スパイラルアップの支援**、及びこれに基づく**技術基準やマニュアル類の充実**など、業務の高度化のための**知見の効率的な集積。**
- ③ 河川維持管理の政策の企画立案に資する基礎的な**情報収集の効率化と適切な管理。**



RMDISの概要

●RMDISの導入により期待される効果

現場

タブレットの導入により、現場監視行為を効率化・高度化

- ① 地図の活用やGPSによって位置情報を把握しながら、的確な周辺状況把握。
- ② 過去の記録や記録項目、関連情報を確認しながら、的確な現場記録を支援。
- ③ 記録と関連付けて写真を撮影。取得データをもとに簡易に日報等を作成。

事務所 出張所

維持管理に係るデータの一元管理により、所内の日常業務を効率化・高度化

- ① 台帳や河川カルテを共有化。蓄積したデータをもとに随時更新が可能。
- ② 適宜分析・評価を実施。河川管理レポート等のとりまとめや意思決定を支援。
- ③ 日常業務に係るデータを簡易に検索・確認。探しものに要する時間を軽減。



現場



事務所・出張所

RMDIS
導入



現場



事務所・出張所